

第 40 回 JCCP 国際シンポジウム

開催中に回答できなかったご質問およびご回答

フェシヤラキ博士への質問

Q：イラン核協議（ウイーン協議）が昨年末までは絶望的に見られていたが、ここへ来て合意の可能性があるかもと取りざたされています。見通しが変わった理由は何にあると見ていますか。また現実に合意に至る可能性はどのくらいあると見ていますか？（質問者原文）

A：フェシヤラキ氏による回答

合意に至る可能性は 50%です。イランの経済状況は徐々に悪化しており、指導部には妥協を求める圧力がかかっています。もし合意があるとすれば、それは 3 月・4 月までに得られ、2022 年後半に実施されるでしょう。

Panel 1 の講演者への質問

Q：石油・ガス産業に対するネガティブキャンペーンが盛んな中、産業界の専門家は、人材確保や若い人材の取り込みについてどう考えているのか、お尋ねします。私もヨーロッパで経験しましたが、世界のエネルギー需要を維持するために十分な仕事と資源があるにもかかわらず、若いエンジニアは石油・ガス産業で働くことに興味を示しません。

A：フェシヤラキ氏による回答

まさにその通り、これは問題です。若い人材は、たとえ報酬が高くても、石油・ガス産業で働きたがりません。これは、悪評ゆえの現実です。

Dr. Aqil Jamal への質問

Q：DAC は理想的な技術と思うがコスト高が壁と理解しています。DAC の商業化は実現可能と見ていますか？その場合、ブレークスルーを実現するには何がキーとなるのでしょうか？

A : Dr. Aqil Jamal の回答

CO₂ の直接空気回収 (DAC) が有望な技術であることには同意します。しかし、現在の技術では、DAC による CO₂ 回収はかなりコスト高です。今後 10 年間で CO₂ 回収のコストを 100 ドル/トン以下にするためには、さらなる研究と技術開発が必要です。更に研究開発が必要な主な分野は、環境条件下でより高い CO₂ 捕集量と、様々な環境条件下での耐久性、特に水分、酸素、微粒子の処理能力を持つ捕集材料の開発です。また、DAC 技術の商業的応用のためには、空気から CO₂ を選択的に捕集し、大量の空気の移動と捕集材料の再生に伴うエネルギー損失を最小限に抑える革新的な CO₂ 捕集構造を持つ省エネ DAC 装置の設計を探索することが重要です。